

平成27年第2回壬生町総合教育会議事録

- 1 日 時 平成27年12月16日(水) 午前10時30分～午前11時45分
- 2 場 所 壬生町役場(正庁)
- 3 出席者 町長 小菅 一弥
教育長 田村 幸一
教育委員 池 節子
教育委員 藍田 收
教育委員 本島 博久
教育委員 大久保 信男
- 4 欠席者 なし
- 5 出席者及び傍聴人を除くほか、会議に出席した者の氏名
副町長 櫻井 康雄 総務部長 齋藤 喜重
教育次長 渡辺 稔夫
学校教育課長 中川 正人 生涯学習課長 沖 薫
スポーツ振興課長 玉田 英二
学校教育課主幹兼庶務係長 黒須 さわ子
- 6 傍聴人 なし
- 7 協議、調整事項
(1) 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等の検討について
(2) その他

9 議事

【開会】

○司会(教育次長)

ただいまから第2回壬生町総合教育会議を開催いたします。

初めに、小菅町長よりあいさつをお願いします。

○町長

皆様こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。第1回目は、総合教育会議の運営要綱や大綱について策定していただきました。大変感謝を申し上げます。本日は、レジュメにある内容について、皆様といろいろな意見を交わしながら、壬生町の教育の方向性を導きだして、教育の向上に努めていきたいと思っております。レジュメでは、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等の検討とその他が協議事項になります。特に適正配置については、国でも今年始めに少子化に対応した活力ある学校づくりに向けてということで方針が出ておりますので、そういうものについてしっかりと皆様と意見を交わしながら前向きに町の教育を作っていくという考えでございますので、限られた時間になりますがよろしくお願ひ申し上げまして挨拶に代えさせていただきます。

○司会（教育次長）

ありがとうございます。

それでは、運営要綱第5条によりまして、町長が議長になりますことから、会議の進行をお願いします。この会議は、原則公開、また議事録も作成することから、発言をする際にはお手をあげてから発言をしていただきますようお願いいたします。それでは、町長をお願いします。

○町長

それでは、早速会議に入らせていただきます。今、挨拶でお話をさせていただいたおりに、本日の協議事項（1）公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等の検討についてを、議題として出させていただきますので、内容について事務局から説明をいたしますので、説明を聞いた中でいろいろとご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○事務局

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きについて説明させていただきます。この手引きにつきましては、平成27年1月27日に文部科学省から少子化に対応した活力ある学校づくりに向けてということで、国の考え方が示されたものでございます。資料2は、12月1日現在の町内の児童数及び学級数ということで提出してあります。壬生小学校では、653人、普通学級が、19学級、特別支援学級が5学級、合計24学級となっております。藤井小学校では、2年生から5年生のところを太枠で囲んでありますが、この2年生と3年生の枠、4年生と5年生の枠で囲んであるのは複式学級ということになります。羽生田小学校も同じように2年生と3年生、4年生と5年生が複式学級になっております。また、稲葉小学校、壬生北小学校は、6学級ということで単学年です。12学級以上は2クラス以上になります。続きまして資料3をご覧ください。小中学校児童生徒、建築年次一覧表ということで出させていただきました。27年5月1日現在で、各小学校の校舎、給食室、体育館等の建築年次と平成32年度までの児童生徒数となっております。次の3ページをご覧ください。昭和55年からの各学校の児童生徒の推移ということで、載せさせていただきました。総数で多い時には、5,700人、平成33年には、3,000人になってしまいます。平成28年以降は、今住民登録されている方が、社会増減なしでそのまま小学校に入学する形で算定しております。次の4ページは、平成33年までに入学者を出したものです。次の5ページからは、小学校の学級数の調査で6ページからは、各小学校毎の学級数になっております。14、15ページは、中学校になります。参考になりますが、学校につきましては、各小中学校、自治会単位で入学していく形になっております。これらの適正配置等を進めていく上で、適正配置等庁内検討委員会を立ち上げましてこれから検討していきたいと考えております。

○町長

今回ご協議をする議題として出させていただきました背景には、国からの方針が出されてということで、それが背景にあってこれからご協議いただくことになりますから、事務局で資料1の最初のページの要点をまとめたような話をしてください。

○事務局

手引きにつきましては、町長からありましたとおり文部科学省から少子化に対応した活力ある学校づくりに向けてということで国の考えが示されたものです。この中に学校規模の適正化の背景と基本的な考え方、統合に関して留意すべき点、また小規模校を存続させる場合の教育の充実、メリット、デメリットについて示されております。この中で6ページをお開きください。一番下に法律が書いてありまして、学校教育法施行規則第41条で小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。ただし書きとして地域の実態、その他により特別の事情があるときは、この限りではないと定められております。町内の小学校の状況につきましては、先程資料2で、12月現在の児童数を載せさせていただきました。11ページにつきましては、学校規模の標準を下回る場合の対応の目安ということで、小学校の場合、複式学級が混在する規模とか1学級から5学級、また6学級各学年1学級ではクラス替えが出来ないということなどについて、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討する必要があるというようなことが示されております。

○町長

今説明がありましたように手引きが出されたということで、その中には少子化の時代の中で、これからもまだ子ども達が増えれば良いが、なかなか増えない現実があり、それに合わせた教育をしていかないといけないということで、そのハードルをしっかりと検討していただきたいという中で、手引きの6ページの下の方に学校教育法施行規則第41条ということで小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、その限りではないということで、皆さん十分承知されていると思いますが、そちらの数字に当てはまらない学校が現実にも出てきているということになりますので、その細かいデータが先程課長の方から話をしてもらった資料3というようなことになります。そういうところを踏まえて皆様方からご意見をいただければと思います。

○教育長

今現実問題として、藤井小は来年の入学者が1人。従って今は複式が2・3年、4・5年。来年は1・2年、3・4年、5・6年。完全複式になるということが既に分かっています。そのような形で徐々にそういう少子化の波が更に押し寄せてきている現状です。

○町長

6年後の数字の中では増えているのは安塚小ぐらいで、厳しい数字になってくるということですが、藍田委員いかがですか。

○藍田委員

あくまでも文科省の基準は、12から18ということになっているのですが、やはり自治体によっては様々な特殊な条件がありますので、壬生町独自の基準となる学級数というのを考えて、設定しても良いのではないかと。併せて学級数だけではなくて、児童の数が減っていますので、1学級の児童数についても35人が基準になっていますが、それを壬生町としては、基準にみあう学校がやはり全てではありませんので壬生町独自の1学級の人数というのを、標準の人数を設定しても良いのではないかと。その基準としてはこれからの児童数の減少に併せて壬生町独自の基準を設けるべきでは

ないかと思えます。

○町長

教育長お話を受け、何かございますか。

○教育長

やはり今東北の方で人口が大分減っていて、いろいろ聞いてみると12学級以上の小学校は北の方では少ないみたいです。だからといって、全部統合と言っても、ある程度藍田委員のおっしゃるように町独自のそこまでいったら統廃合は必要ではないかという、それが例えば今考えている適正配置等検討懇話会等でいろんなご意見を出し合いながら検討していく必要は確かにあるかもしれないです。

○町長

藍田委員から町独自のというようなそういった一律で考えなくて、それぞれ市町で状況が違うから壬生町は壬生町としてのそういったものを考えていって良いのではないかというご意見がありました。大久保委員いかがですか。幼稚園でお母さんの声とかがあると思えますがそういったものを含めてご意見をいただけますか。

○大久保委員

保護者の方は余り気にしていないが、学校、特に藤井小と羽生田小は減るのは分かっているわけですよ。学級の人数を調整しても間に合わないわけですよ。統廃合と言うのは現実問題として近隣の小学校と出てきてしまうのではないか。人口増の何かが、その地区に住んでくださいよと、そういう特例か何かあれば、また住民が戻ってくる可能性があると思えます。このままいくと本当にどんどん減っていくわけですから適正配置と学級増を考えても、人がいないわけですから、それをどうするかというのはやはり地域住民とも話し合ったり、ここはこうですよとしないと、現実問題いけないのではないか。あとは、学区の見直しとか含めて。方策としては人口、減るのは分かっていますが、特に羽生田はこれから発展する地域だと思いますから何らかの方策があってもしかるべきかというようにふうに思います。

○町長

本島委員はいかがですか。

○本島委員

壬生町自体は栃木県の中でも中央部に位置していて、立地条件的に良いと思えますが、そういう幹線道路から外れた地区に関しては、どうも若い人が少ない。そして、壬生町に住みたいと思う人が、若い人が増えてくれないと多分これからどんどん減少してしまうのかなと思っている。それから適正配置は非常に難しい問題で、小学校は各地区の基盤となる町内会の基礎となるところがある。人口が減っていく中で、それを残すにあたって特長ある政策を考えないといけないなど。専門家ではないので、具体的な案というのは出ませんが、そこに住んで良かったなというような施策があると良いかなと思えます。

○町長

下野市長の話にもありましたが、自治医大の先生方は高額の所得で税金を納めてくれるというのを、実際うらやましいといつも思っていて、壬生の場合は獨協関係者の方は宇都宮が多いというのはほとんどそうなのだろうと思うので、現実はっきりと

認識していなければいけないと改めて思っています。その原因を解決してできるだけ壬生に住んでいただくような努力をしていかなければいけないと思っています。現実問題として今伸びているのが安塚の方と、下表町。住宅地として1番南と1番北が調子が良いですね。中が意外と空洞化しているということと、あとは農村部においては、大字地区は、これから大人も子どもも減っているのが現状でありまして、昔は一つ屋根の下に同居という形で2世帯、3世帯あったのですが、宅内に家をつくるというのが、10年くらい前で、今は確実にアパートに出てしまう。要はその家に住まないで親と離れて同じ壬生の中でも市街地にあるアパートの方に住んで子どもは、壬生中に通わせるとか、他の小学校に通わせるというような形で小規模校の方から離れてしまう。そういった若いお母さん方の声なんかも聞くと、やはり少ない人数で教育させるのもちょっとね、というようなお話を結構耳にします。農村部は皆それでは困るのだよと言いますが、なかなか今はそういう時代でないのもう先輩方もやむを得ないと言うようなムードですね。そういったムードになっているということで、今後もその流れは変わらないだろうなというように感じます。私は、農村部に住んでいるのでそういうふうに感じています。そのような話で、池委員トータルでご意見をいただけますか。

○池委員

本島委員がおっしゃってくれましたが、若い人が住める町にする壬生町のまちづくりをどうするか頭にいれて、この少子化を考えていかないと、少子化の部分だけ捉えて、こことここを統合するというこの壬生町の場合は、羽生田小と北小と稲葉小をもし1つにしたとしても1クラス分になるかならないかですね。合わせても6学級。この資料によりますと特別の事情がある場合は、この限りではないということなので、12学級以下でも、最低限6学級と考えても3つを統合しても1学級にしかならないというこの現実をよく分析した上で、この壬生町のまちづくりというのを考えていかないとだめなのではと思います。この統廃合を考えると、3校統合でもそこに学校があるということは地域社会が生きているということで、学校がなくなるということは、その地域社会が徐々に壊れていくという現実がありますので、それをどうするかという覚悟も統廃合するときには必要かと思えます。ですから築年数も考えると新しく立て替えたほうが良いとか、そういうものもありますが、この壬生町にとって子どもを育てていく上で、統廃合していくそのまちづくりを全体に考えないとやっていけないというのが1つ。私のふるさとが、私の卒業した中学校も小学校も統廃合でなくなった。スクールバスで通っている。その地域にあった学校がすっぱりなくなって、新たな学校が出来て中学校も更に遠くなっていくという。地域社会で子供を育てましょうということが、なかなか出来なくなってくる。今地域で子どもを育てましょう。学校を、コミュニティにしましょうと言っている流れの中で統廃合が出てきて、難しい問題が出てきているのかなど。1番難しい局面にあるのだなということを感じますので、じゃ壬生町はどういうふうにして統廃合していった場合もメリット、デメリットを良く検討した上で、予算上のこともあるでしょうし、また地域住民の意見もありますでしょうし、避難の指定場所になっている学校をどうするかということもありますし、じゃその統廃合した学校を残してこの地域のコミュニティスクールみたくするのかと

か、そういう大きい構想のもとに考えていかないと、ただ単に人数あわせだけしていたのでは、解決しないかなと思っています。子ども達のことを考えると本当に1人しか入らなくて1人で1年生勉強するというのは、大変なことですよ。複式であったとしても兄弟がいるかもしれない。そういう中での教育が人格形成の上で良いかということがあります。そういうことを考えた時に私が1つ浮かんだのは、小規模校の児童を週に何回か大規模校に行き一緒に活動する場面をつくる。そして意見を言い合うとか、もまれて縦割りで大きい学校はしていますが、小規模校の児童が大規模校に行き一緒に学習するということも考えていかないと駄目なのかなと感じます。

○町長

全く委員さんのおっしゃるとおりの話で、校舎が意外と古くなってきている現実がありますが、だからといって対応は、直ぐにできるものではないですし、今のよういろいろな防災の方まで関わってくるような大事なものが背景にあるということで、委員のおっしゃられたように、そういう大規模校での学習はすごく良いことなんだなと思います。これは簡単な話ではないのでつめていかなければいけない部分だと思いますが、教育長今のようなご意見を踏まえた中で、どのような手順がよろしいのでしょうか。

○教育長

先程の資料3の22ページに参考というのがありますが、壬生町学校適正配置等検討懇話会設置要綱こういうものを作って、やはり地域の人達を含めて検討しなければならないと思います。この設置要綱にもあるように、これをつくる時に大事なのが、おそらく誰を選任するかということになってくると思います。やはりこの会議の中で、それぞれの地域の人達が持っている統廃合に対する不満であるとか不安そういうものをたくさん出して、それと同時に地域の人ばかりではなくて、やはり統廃合される側の保護者の、親の意見も聞かなくてはならないと思う。地域では、そういう意見があっても親としてみれば子どもが余り少ないと、こういう点で困るという親の意見もあるかと思うので、その親もこの中にやはり入れなければならないのかなと思います。更にはやはり統廃合に関する知識を持たれている有識者、これもやはりこの中に入れたい、あるいは皆さんの意見をうまくコーディネートしていく座長となるような方、大学教授などが良いと思うが、そういった誰を委員に選任するか非常に大きな課題となってくると思います。そこを良く考えてとにかくこの会議の中で町民の皆さんが持っているような意見や不満いろんな考えを全部出してもらって、その上で考えていくとやはり最終的にはこういう方向性で良いのではないかと、というふうな答申的なものが出せると思います。それを広く町民の皆様にご理解いただくというように形で、進めていくのが重要な気がします。

○町長

統廃合ありきということではなくて、まず先程委員からご意見いただいたように、学校が果たしている役割というか教育だけではない部分があるわけで、そういった背景もしっかり踏まえながら、また、そういうところから少し外れた違う形でも自分の形があっても良いのではないかと。そういった議論をしっかり積み重ねて、慎重に進め

ていった方が、教育長から話しがありましたように20ページ、22ページ等々で役場の方でまずしっかりとそういった適正配置について検討する委員会を作ったり、あとは22ページのいろんな関係者、そういう方を集めての懇話会の設置等々をすると良いのではないかというようなご提言がありました。何もしないぞ、というわけにはいかない現実がありますので、教育長から提言があった形で庁内、役場内、また町を離れた外側の関係者の方にそういった会を作っていただいて、しっかりと議論を重ねていって、慎重に最終的な結論を導き出すという形で進んでいってよろしいでしょうか。

○藍田委員

全国学力学習状況調査とか、あるいは教育長の教育委員会の定例会の席で、小規模校が非常に良く頑張っているんですね。例えば大規模校と比べても学力の差はない。それから小規模校出身には、例えば不登校の生徒は少ない。そういう点で学級数とか児童の数とか、これをこれから考える上で、小規模校にも本当に良い面が、財政的には、難しい面があるかもしれませんが、教育効果の点ではすごく小規模校は頑張っていると思っていますので、そうした小規模校のよさというのをやはり念頭におきながら、そういった基準とか、これからの適正規模・適正配置に生かしていってほしいと思っています。

○町長

国の方も適正規模・適正配置に関しては、手引きは出しましたよ。手引きは出しましたが、その中の対応が良いか悪いか。また、小規模校が、今お話しがあったようにその良さがあるから最大に生かすそういう教育もあるんじゃないのということをしっかり検討してくれということなんだと思いますので、そういうことをしっかり議論して、最終的な答えを導き出すというそういうような形としてそういった懇話会、また役場の方の検討委員会を作って進んでいただければと思っています。今ご意見をいただいたことをしっかりと反映されるようなことで、スタートをきっていくことになると思いますので、そういうことで今の庁内の検討委員会また、大まかな説明の方向で進めさせてよろしいでしょうか。

(はい)

○町長

はい、ありがとうございます。それでは協議の1点目の小中学校の適正規模・適正配置等の検討についての協議においては本日の教育会議の中で提案のありましたそういった会をつくってこれから本格的に協議をしていくということで決定をさせていただきたいと思います。

○町長

続きまして(2)その他ですが、その他は、事務局からは何かありますか。

○事務局

英語教育の資料を用意しました。

○町長

こういう機会ですので、その他ということで英語教育についてご発言をお願いします。

○池委員

前回にも英語教育、壬生町の英語力を上げましようとお話したかと思いますが、教育委員会定例会で教育長から報告がありました。壬生町英語力向上推進研究会を立ち上げて、壬生町の英語力を高めましようということになってきております。現実には28年度から小学校中学校に英語が入って参りますし、どのようにしたら英語力を高めていくかということで、現場の先生は努力をすることもさることながら、外側から私達が支援できるものを考えていった方が良いかなと思います。ALTの方が今3名いらっしゃいます。3名で10校を回っている。回っているというのはなかなか厳しいことだと思うんですね。ですから、せめてあと2人ぐらいいると随分とゆとりを持って、中学校なりまた小学校の方にALTの方が、英語を話せる方が回数を多くしていけるのではないかと思います。せめて1人で2校ぐらいというほうが良いかなと思いますので、ALTの充実とあとその他壬生町で英語のできる方結構いらっしゃると思うんですね。教員にならなかったが、英語を教える資格を持っているとか、そういう方が潜在的にいらっしゃると思うので、これを機会にそういう人材を発掘して、ボランティアか有償かは別にいたしまして、そういう方の力を得て英語活動を活発にしていくということも必要かなと思います。例えば土曜日の時間も利用して壬生町に住んでいる英語のできる方にいらしていただいて、子ども達と英語で遊ぶとか英語力をつけるとか、そういうこともした方が良いかなと思っています。もう1つ英語力を子ども達に高めていくために、結構機器が必要です。DDLと言っていますが、データ駆動型学習プランとなっていますが、そういうものも活用しながら子ども達の能力を高めていくということも必要になってきて、アルファベットの発音をどうするかということもそういう機械を使って音声で聞くということもALTだけに頼らないで、機材も使っていくことも、お金も掛かることですが、そういうことも検討していくことが必要かと思っています。また、今後こういう研究会の先生方からそういう要望が、出てくる可能性がありますのでそういうことも踏まえて私達はとらえていって支援する。壬生町の子ども達の英語力をアップしていくことに繋げていけたら良いかなと思っていますのでよろしくお願いします。

○町長

英語力について大きくは3点のご意見がありました。その中でALTですが、ALTは何年ぐらい居てくれるのですか。

○事務局

年数につきましては、1年毎です。また、ふさわしくなくて途中で変わってもらった方も1名います。

○町長

そのチェンジは、簡単にできるのですか。

○事務局

学校の先生にALTの評価を学期ごとにやっていただいて、それを教育委員会にあげて内容を検討して、あまりにもこれではということであれば代わっていただきます。今年交代していただきました。

○教育長

ALTについては、どう活用するか。高いお金を使うので、できるだけフル活用。いろんな面で活用できるように、いろいろ工夫していく必要もあるのかなというふうに考えています。少々町長には報告が遅くなって申し訳なかったのですが、先程配られた資料で壬生町英語力向上推進事業実施要領というのがありまして、実は第1回の壬生町英語力向上推進研究会を12月1日に開催させていただきました。メンバーは、その要領の3番にあるように、中学校の英語の先生2人と小学校から英語活動、特に熱心にされている方2人を集めまして先生方4人。それから教育委員会事務局から指導主事と私と合計7人でどうしたら話せる英語、そしてなおかつ入試でも点の取れる英語力を付けられるかということでいろいろ案を出していただきました。その結果出てきたのが、裏側のページにあります「話せる英語、入試に強い英語力を身につけるために」という資料です。指導主事がまとめてくれたもので、大きく4つほど先生方から出まして1つは、ネイティブな英語をより多く聞かせ、その意味を予想させる。ネイティブな英語で話しかけられた時に大体こんなことを言っているんだと予想する力がないと会話が續かない。何を言われているかさっぱり分からない、續かないということでその1つの具体策としてでてきているのが、中学校においてはお昼の放送を活用し、週2回程度ALTのネイティブな英会話を聞かせ、どんな意味のことを言っているのか給食を食べながら予想させて、そして友達同士でこんなことを言っているのではと会話をしながら給食を食べ、最後の方でその会話の内容について解説をしていただく。そういうようなことで日常的にネイティブな英語を聞いて、こんなことを話しているのではないかというのを予測するようなことを繰り返すことで、英会話のきっかけになるような相手の話していることが、分かるというような力をまず付けたいのでは。この中でALTの活用の仕方を今までやっていないことなので、こういう使い方もあるのだと、一般的にはALTが教室に入って、給食をグループの中に入って、例えば6人で食べているとするとお昼の時には6人しかご利益がないんですよ。ところが校内放送、一斉に全校生徒に話しかけることで、全員がネイティブな英語を享受できる効果があるのかなと、これは是非中学校でやっていただけないのかなと思っています。有効な活用の仕方をこれからも更に開発していく。将来的には小学校の英語の授業が増えてきますので、どういうふうにすると効果がでるか工夫が必要です。その他、語彙力・文法力をつけるとか、英語で会話する機会、チャレンジする機会を多くするとか、そして4番の英語長文の意味を予想する力を身につける、これは入試とか実力テスト、模擬テストの時に特に重要な力だと思うが、いつも家庭学習の時に辞書を使って最初から意味を調べてしまったのでは、意味が分からない単語があったときに、それを前後の単語の意味から予想することが出来ない。予想する力が身に付かない。予習の段階からそういうふうに辞書も何も使わずに読んでみて、大体こんなことを言っているのかなと予想できる力を付けていく必要があるのではないかと。そういうふうなやり方をしているのが、宇大付属中だそうで、宇大付属に行った先生が申しておりましたので、そういったところも取り入れてやっていけば良いんじゃないかという提案がありました。

○町長

この推進研究会は、第1回をまず開催して年にどのくらい開催するのですか。

○ 教育長

年に1回か2回開催できればと考えております。不定期です。何らかの英語の学習、英語の学力向上、会話向上で行き詰った時に開くことを考えています。今回具体策が出てきましたので、こういった事を実践しながら、どの程度問題が解決できるか、そういったことをやって行ければと考えています。

○町長

ALTも始まって何年でした。

○大久保委員

20年以上ではないですか。

○町長

結構質が良い時と悪い時があったので、直接とか委託とかいろんなことをやってきて今があるんですが、人数もさることながら質というか、その壬生町にすごく熱い思いをもって学校だけではなくて、どんな行事にも顔を出そうというぐらいの方が来ていただくと、学校へ行くのも多くなったり、いろんな活動が行われてくるのではないかと感じています。ただ現実的に人数が3名では少ないだろうと、いろんなことを基本的にやるのには、そういったご意見は重々承知をしておりますので、教育長から話しがあったような研究会等々でも検討していただきながらDDLというのですか、併せた形が良いのかなと感じますが、実情を全て把握していないので、その辺の現状を、そうすると何人足りないのかなという部分も、数字的にも思い切ってもっと増やしたほうが良いのではとご意見もできる可能性もあると思いました。それでしっかりと子ども達が話せるようになるのであれば、その投資は大変な投資とはなってくると思います。その辺は、私はそのように考えますが、委員の方からご意見、ALTについて何か。

○本島委員

高校の話ですが、ALTの先生を使うと、英語の先生の能力が低いとALTの方が偉いというふうに生徒は思ってしまう。それでALTの先生の主体の授業をすると学校のカリキュラムにそぐわないというようなギャップも出てくるということがあるようです。教育長からいただいた英語力向上推進委員会の小学校の先生が、壬生町は8校あるが2名しか選出されていない。そして、今日も下野新聞に栃木県の教育に関する記事が出ていましたが、これから学力向上には、やはりALTを使い中心になる先生の育成に力を入れていただいた方が、少ない費用の中で大きなメリットがある。英語を使うのを怖がる先生の教育・育成をしていただいて、そのしっかりした先生方の中からしっかりとイニシアチブを取って、ALTの先生方に協力していただくような授業ができると良いかなと思います。

○町長

円滑にっていないのがあるのですか。

○本島委員

そういうわけではないですが、ALTの先生を替えるには時間と手間がかかるので、その人を替えるというよりもこちらの指導者の立場の人が、いかにその人の特性を生かしていただくことで、ALTも欠点を補うことができるのではないかとそういう意

味です。

○町長

いろんな教育委員会からの話の中でも、やはり予算の編成のときなどいろいろ話を聞くと、やはりそっくりALTに投げっぱなしのような先生も少なくとも全然いませんという話しにはいきませんという話はちょっと聞いてはいるが、教育長その辺は。

○教育長

中学校は英語の専門の先生なのでまず問題はないかと思います。小学校は新たに導入されて小学校の先生は英語が専門ではない人がほとんどですので、英語活動ということで、最初始った当初は、やはり先生方ややり方が分からなくて、戸惑いがありましたので、ALTの先生が主導権を握っておんぶに抱っこ形の英語活動が多少あったのではないのでしょうか。最近は改善されてまいりました。だからまだ新採とか英語の活動の授業をやったことのない人にとってはやはり、やり方が分からなくてそうなる可能性はありますので、これからも小学校の英語の活動の研修というのはそれぞれの学校単位で、あるいは研究会という形でやっていかないと、今本島先生からご指摘されたような形になってしまうという危険性があります。

○町長

是非ともそれはALTの人数と併せた形で仕組みをつくっていただくような形で適正的にも、人数的にも3名で足りるかどうかということで、検討していただければ良いかと思いますので、それは推進研究会の方で揉んでいただくことは可能ですか。

○教育長

大丈夫です。

○町長

池委員どうですか。

○池委員

検討して現場の先生の声聞くというのは大事だと思います。

○教育長

小学校の先生が2人入っていますので、先生方のご意見を聞いていきます。

○町長

そういうことで、進めさせていただいて、もう一つの英語指導のできる方の人材発掘で、これは非常に良いですね。

○池委員

私達は知らないで普通にお付き合いしていて、英語できるのよという人に出会ったものですから、それでボランティアで教えたいとかやりたいとか自分の子供にも英語を教えたいので英語の音楽を流しているという教育をしている方に出会いましたので、ああこういう若い方で英語科を卒業してきた方というのは、今の時代結構いらっしやるので、活用したいと思うので、学校の先生にはならなかったけども教員採用には受からなかったけど、でも英語を好きでやりたいというそういう人材を発掘していくと良いのかなと思いました。

○町長

あの非常に良いアイデアですが、事務局の方で形にしていこうとした時に対応で

きますか。

○事務局

今、学校地域支援ボランティアということでいろいろ英語以外については入っていただいているので、英語もその中に入ると思います。あとは、学校の先生があくまでT1となってそこら辺から授業になるかと思えます。ただ、ALTの補充ということで、教員助手ということで英語が堪能な方について有償でお願いしている部分もあるので、足りない時にはそういう方にも有償ボランティアの方とか、またその中で無償の学校支援ボランティアという形で両方考えられるので、取り組んでいきたいと思えます。

○町長

非常に良いアイデアなので、地域ボランティアの部分でご協力をいただいているものと、またそれだけ特化するような感じで取り組みを考えていただきたいと思えます。何か形ができるんじゃないかと思えますし、非常に効果も大きいのではないかと。

○教育長

今、町の方の事業で、1日英語で過ごそうというのがありますよね。あれなんかに英語活動ボランティア募集という形で募集をして、まず、あれに参加してもらってそういうところから参加していただいて、たくさん英語を話すボランティアの方に来ていただいて、子ども達とどんどん話していただいて、その中から今度は、学校教育へのお誘いをしていく。呼び水ではないですが、そういうような形で最初は飛び込んでいくと良いんじゃないでしょうか。特化して募集した方が良いでしょうね。

○町長

形にしないとなかなか。潜在的に話せる方が確かに壬生町にもたくさんいらっしゃると思いますので、そういう方のお力を生かしていく、力になっていただく良いアイデアだと思います。事務局側でよく教育長とともにつめさせていただきます。早急に実現に向けてやっていただきたいと思えます。その他何か。こういう機会がございますので、ご意見ありましたらお願いします。

○藍田委員

この前のゆうがおマラソン大会では、やはり壬生町をよく外部に広報というかアピールすることが出来たと思うのですが、一方、小学校とか中学校においては、知徳体のバランスのとれた児童生徒の育成があって、特に学力の土台になるものとして、体力というのが強調されるようになってきていると思えます。従って小学校においては、ランニングの時間を設けている学校も増えてきていますので、是非学力を直ぐに即効性はないかもしれませんが、体力を付けるというか、駅伝大会もありますし、12月のマラソン大会もありますし、壬生町の特徴の一つとして子供が走るという、そういうふうなコンセプトみたいなものがあれば良いかなと思えました。

○町長

体力自体が、今どういう位置にあるかというのが、事務局の方ではつかんでいますか。県内の中でどの位置なのか。全国の中でどの位置なのか調べといていただいて、そういうデータを基に次の教育会議の中で、また具体的にそういう効果があるやり方があるかどうかそういうお話ができればと思えます。よろしいでしょうか。

○教育長

確かに藍田委員のおっしゃるとおり、今福井県が、学力も体力も全国1位ということで、福井はかなり走っているみたいです。小学校の20分間の業間の中の5分間を持久走という形で走って、体を鍛える中で心を鍛えて、やりたくない勉強がやれるようにするというそういうことが、あるようですね。

○町長

確かに寝不足だったり、子供らが学力とか集中力がなくなることもあるわけで、基本的に体がしっかりしていなければ、一生懸命詰め込もうとしても詰め込めないと思いますので、その辺の体力づくりという面では本当に基本となるんだと思いますので、その辺は研究をさせていただくということでもちょっとお時間をいただきたい。

○大久保委員

体力というか運動面で今幼児もそうなんですが、投げる力が弱い。サッカーとか蹴る力はあるが、投げる力が弱いので、多分小学校でも余りないと思うので、そういう機会は増やしたほうが良いなと思うんです。全国的にそういう傾向ですね。幼稚園でも網などを使って投げたりするのもあります。

○町長

骨は脆いとかはないのですか。

○大久保委員

そうではないですね。栄養が良い状態でそんなにない。ただ危険を回避する力というのは弱いですね。転ぶという経験が余りないので、室内遊びの方が多くなってきて。

○教育長

先日下野新聞に栃木県の投げる力が全国最下位という記事が大きく載ってしまいました。私も小学校にいたときに気がついたのですが、休み時間にドッチボールとか野球をやる子供がいないんですね。ドッチボールは、まずないですね。ドッチボールをする代わりにそのボールを使ってサッカーをやっている。簡単にできるのでサッカーになってしまう。1つのコートで何チームもサッカーをやっている。よくぶつからないと思うんですが、野球もいないですね。手を使った運動、昔はドッチボールをやっていましたよね。割と投げる力がいりますので、あれは投げる力を付けるのに良い。そういう意味では、教育委員会でやっているみぶっ子ドッチボール大会は非常に良い企画です。あれをやることで、かなり壬生町では、大会に出るために随分ドッチボール練習しますからね。非常に良いのかなと思います。

○町長

バランスの取れた体をどうやって作っていくかということでは、データを事務局の方で揃えてもらって、それを基に目標値みたいのを作っていければ良いと思います。その他の議題は無いようでございますが、以上で第2回の総合教育会議を閉じさせていただきますが、次回第3回はいつ頃考えていますか。

○教育次長

今回は3月、定例会をやりましてその後総合教育会議の第3回目ということで、やりたいと考えています。日程は事務局で調整させていただきます。

○町長

長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。以上で第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。大変ご苦勞様でした。